

# 子宮内膜症

子宮内膜組織が子宮以外の場所で増殖・剥離を繰り返す病気で、月経が繰り返されるたびに進行していきます。痛みが強いなど、症状セルフチェックに当てはまる場合は、我慢をせずに、早めに婦人科を受診しましょう。

## ◆子宮内膜症とは

子宮内膜症は、本来は子宮の内側にしか存在しないはずの子宮内膜組織が、子宮以外の場所（卵巣、腹膜など）で増殖、剥離を繰り返す病気です。20～30代の女性で発症することが多く、そのピークは30～34歳にあるといわれています。

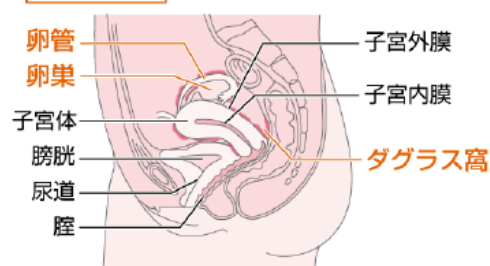
子宮内膜症がしやすい場所は、腹膜、卵巣、子宮と直腸の間のくぼみ（ダグラス窩）などです（右図）。卵巣にできたものを卵巣チョコレート嚢胞とよびます。子宮の内側からはがれ落ちた子宮内膜組織は、月経血として腔から体の外に流れ出ていきますが、子宮以外の場所で増殖した子宮内膜組織は腹腔内にとどまり、炎症や痛み、癒着の原因になります。また、不妊や卵巣がんの原因にもなります。

### 子宮内膜症が発症しやすい部位

オレンジ文字が発症しやすい場所です。

（注）図中の部位名のほとんどに子宮内膜症が発生する可能性があります。

#### 横からみた図



## ◆こんな症状に注意！

代表的な症状は「痛み」です。痛みの中でも月経痛は子宮内膜症患者の約90%にみられます。この他、月経時以外にも腰痛や下腹痛、排便痛、性交痛などがみられます。こうした症状は20～30歳代の女性に多く発症し、加齢による女性ホルモン分泌の減少を境におさまります。

また、妊娠を希望する生殖年齢の女性では「不妊」が問題となります。妊娠の希望のある子宮内膜症患者の約30%に不妊があると考えられています。

## 症状セルフチェック

- 月経痛が年々ひどくなってきた。
- 性交のとき、奥の方が痛い。
- 排便のとき、肛門の奥が痛い。
- 月経以外のとき、下腹部に鈍痛がある。
- 月経のとき、吐き気やめまいがする。
- 月経のとき、鎮痛剤を飲んでも痛みが治まらない。
- 月経のときに飲む鎮痛剤の量がだんだん増えてきた。
- 結婚して2年以上たつが妊娠しない。

症状がひとつでも当てはまる人は、  
婦人科で相談してみましょう。



## ◆早期発見のポイント



子宮内膜症は月経が繰り返されるたびに進行していく病気なので、受診を先延ばしにするのは禁物です。上記のセルフチェックに当てはまったり、家族に子宮内膜症の罹患歴があれば、なるべく早く婦人科を受診しましょう。早期発見は、病気の進行抑制・症状軽減に効果的です。

また、卵巣チョコレート嚢胞と診断された人のうち0.7%に卵巣がんが認められたという報告があります。40歳以上の方や、若くても嚢胞が大きいほど（10cm以上）卵巣がんの合併リスクが高くなり、注意が必要といわれています。卵巣チョコレート嚢胞があることがわかったら、必ず定期的に検査を受けましょう。